

令和5年度 第1回 県立病院運営評議会（概要）

1 開催日時

令和5年8月10日（木）午後2時00分～3時45分

2 会場

オンラインにて開催

3 出席者

委員：渡辺会長、原委員、石谷委員、安梅委員、河村委員、間庭委員、山根委員、黒崎委員

病院局：広瀬病院事業管理者、竹内病院局長兼総務課長、南課長補佐、岸主事

中央病院：廣岡院長、中川事務局長

厚生病院：花木院長、中西事務局長

4 会議の概要

（1）開会

開会にあたり、病院事業管理者より挨拶を行った後、出席委員数を確認。

委員9名中8名の出席があるとして、会議が成立していることを宣言し開会した。

（2）議事

①令和4年度県営病院事業実績等について

②第Ⅲ期県立病院改革プランの進捗状況について

③県立病院の最近の取組について

病院局長：資料2及び資料3を説明

中央病院長：資料4-1、5-1を説明

厚生病院長：資料4-2、5-2を説明

【質疑応答】

<委員>

県立病院の広報についてどのように取り組んでいるか。

<中央病院>

院外広報誌や診療案内を作成して関係機関に配布するほか、院内ツアー、市民公開講座を実施し、病院の広報及びブランディングに取り組んでいる。今年度、広報に興味関心のある職員を募り、バーチャルな広報室を設置。今後、子ども参観日や自治体等に出向いて行う出前講座等も企画したいと考えている。

<厚生病院>

広報専任の職員を1名配置し、ホームページ、病院案内、その他院内外広報の改善に取り組んでいる。

<委員>

鳥大病院が令和5年度脳卒中中心臓病等総合支援センターモデル事業に選定された。このことについて、県立病院とも連携を図りたい。

<中央病院>

日頃の脳神経外科からの医師派遣のおかげで脳神経内科と一緒に24時間体制で脳卒中对応、T P A、血管内手術ができており深く感謝する。中央病院では、今後脳卒中相談センターの開設を予定しており、東部基幹病院としても全面的に連携していきたい。

<厚生病院>

春から脳神経外科医の増員があり、脳卒中等に対応している。今回のモデル事業についても参加し、全面的に協力させていただきたい。

<委員>

専門医療機関連携薬局に係る病院研修が、県内では鳥大病院でしか受けられない。県立病院でも受けられるようにならないか。

<中央病院>

具体的な基準等を確認し、できる限りのことは尽力したい。

<厚生病院>

薬剤師の活動を広げるという趣旨でも重要であるため、検討していきたい。

<委員>

近年、厚生病院でインシデントレポートの件数が増えているようだが、その要因は何か。令和2年度、3年度のレベル3～5の件数がほかの年度と比べて多い。

<厚生病院>

詳しい要因については確認して後日個別に報告する。インシデントレポートが積極的に報告されていることについては、よいことだと考える。

○後日要因について確認

令和2年度から、従来のレベル2の一部をレベル3に分類する見直しを実施した結果多くなったもの。旧分類だとレベル別報告件数は概ね同程度。

<委員>

中央病院での内科専門研修プログラムにより育成した医者を地域の病院に派遣するという説明があったが、医療人材の共有化が進むという認識でよいか。また、内科医に限らず他の職種についても育成し派遣することは考えているか。

<中央病院>

医師人材確保について、医師の派遣などはある程度東部圏域でやりくりしなければならない。そのためにも当院から派遣という形で地域支援を行っていきたい。看護師については、若い年代の看護師が多く、育児休業等による欠員が生じているため、現時点では困難である。

<委員>

小児救急について、10時まで救急外来を維持しているということだが、これは中部の小児休日救急診療事業にかかわる時間帯が10時までということか。

<厚生病院>

中部圏域については厚生病院、中部医師会、鳥取大学からの派遣医師により、土日含む夜10時までの診療に対応している。

④次期プラン（公立病院経営強化プラン）について

中央病院長：資料6-1を説明

厚生病院事務局長：資料6-2を説明

【質疑応答】

<委員>

今年度から新型コロナウイルスに関連した補助金が削減されていくと思うが、補助金がない状態の経営見込みはどうか。

<中央病院>

補助金がなくなると、赤字の見込みである。経営戦略会議等を開催し、効率的な経営を検討するとともに、全職員が経営に興味関心を持ってもらえるよう、取組を始めたところ。

<厚生病院>

補助金がなくなると、赤字の見込みである。赤字削減のため、DPC等の解析をはじめとする収益改善の取組を行う。

※次期プラン（公立病院経営強化プラン）の方向性については、委員からの異論意見なし

⑤県立病院に求めること・意見等について

⑥その他

【質疑応答】

<委員>

医薬品の流通、供給不足に関連した疑義照会が病院に対して増えているかと思う。このことについてお詫びさせていただくとともに、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

<委員>

ジェネリック医薬品の供給の不安定さに端を発して、先発品も含めて医薬品の供給がかなり不安定になっている。病院、調剤薬局等フォローし、協力しながら、解消していかなければならない地域全体の課題である。

<委員>

今後マイナンバーカードに紐づけたデータでの診療が始まり、個人情報の紐づけミス起因とする医療ミスも発生するおそれがあると思うが、情報管理体制について、何かしら考えはあるか。

<委員>

政府の方針を受け、医療機関ではマイナンバーカードでの受診に際して適切な医療費の請求を行っているところ。また、現時点では健康保険証の資格情報がマイナンバーカードに反映されているのみであり、まだ本格的な診療には用いられる段階にないのが現状。

【報告事項】

<病院局>

今後のスケジュールについて
資料6の経営強化プラン骨子に肉付けをしていき、国で定められた地域医療調整会議の場で意見を伺う。

それを受けて、改めて本評議会の皆様にご意見を伺いたい。10月もしくは11月ごろに次回評議会を開催できればと考えている。

(3) 閉会

議事の終結を宣言し閉会。